

輸出事業計画

※申請者名：株式会社かけがわ有機の郷、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・かけがわ有機の郷は、海外での需要が大きい有機栽培茶の生産を拡大し、安定した緑茶の海外供給及び産地収益の増加を図るため3つの共同荒茶工場が協力し令和3年11月に設立した。
- ・当社は、生産者及び流通業者が連携した輸出推進体制を構築することにより、有機生産体制の確立を目指している。掛川市内の生産者からも有機栽培茶を受け入れるなど、地域全体で輸出拡大に向け、品質の向上及び安定に取り組み、海外ニーズを的確に捉えた茶生産を進めている。

【課題】

- ・茶輸出量が年々増加する中、掛川市で生産される茶は、輸出先の残留農薬規制により輸出に適さない茶が多くあるのが実情であり、海外での需要が高い有機栽培茶生産の市内取組面積は市内経営茶園面積の3.4%程度にとどまっている。そのため、輸出に取り組む流通業者は市内にいないが、主に県外産の有機栽培茶を輸出しており、生産と流通両面における輸出体制が整った産地とは言いがたい状態である。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

- ・海外での需要が高い有機栽培茶の生産拡大のため、有機JAS認証取得の圃場面積を拡大する。
- ・労働力不足解消と効率化のため、資材や知識の共同化、茶園管理の組織化をする。
- ・新規参入者の増加、ニーズを踏まえた生産体制構築のため、経験・情報が見える化し、研修会等による情報共有を実施する。

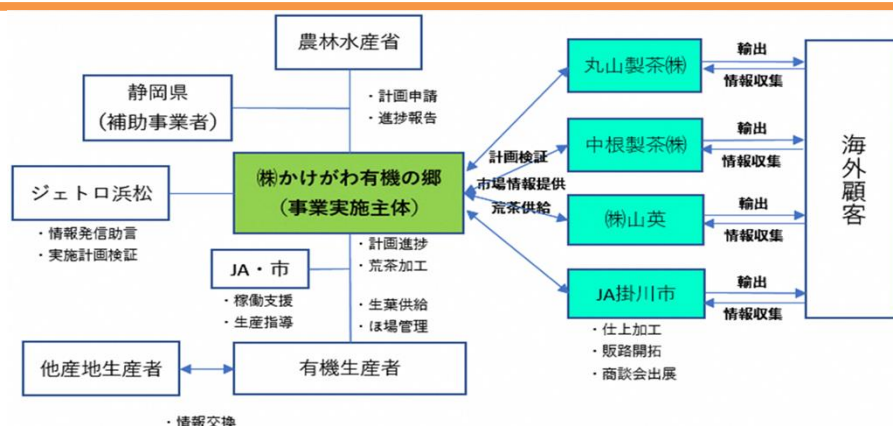
【製造】

- ・流通業者との定期的な検討会実施により、マーケットインの発想に基づく商品や販売先に応じた製造を目指す。
- ・製造技術の基本マニュアルを作成する。

【物流・販売】

- ・安定的な製品供給体制を実現するため、トライアル&エラーを実施し、経験的な知識として栽培技術を確認し、流通業者へ共有することで安定的なサプライチェーン構築を図る。
- ・流通業者との連携により、マーケット情報を積極的に収集する。
- ・近年、生産流通における透明性の高い商品が欧米諸国から求められているため、生産者の顔が見える、産地の特色やストーリーを発信する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和4年）	目標年（令和6年）
輸出額（千円）	3,620	39,878
輸出量（kg）	1,838	17,856
輸出先国	米国・ドイツ	米国・EU